

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 1 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2011 年度

課題番号：21520152

研究課題名（和文） 第一次世界大戦がフランス演劇に及ぼした影響に関する研究

研究課題名（英文） Study of the influence of WW I on the French Theatre

研究代表者

小田中 章浩（ODANAKA AKIHIRO）

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70224251

研究成果の概要（和文）：

第一次世界大戦中のフランスにおいて書かれ、また上演された戯曲の調査を行うことにより、以下が明らかになった。(1) 戦争プロパガンダにおいて演劇の占める位置の凋落；言葉を主体とした演劇は近代戦争を表象できないことが明らかになった。(2) 戦争プロパガンダ劇においては、現実の総力戦と同様に、女性や子供という表象も「動員」された。(3) 戦争プロパガンダ劇におけるフランスの特異性；伝統的に言葉の表現力に重きを置くフランス演劇では、あたかも言葉の持つ呪術的な力によって敵を屈服させ、自らの文化的な威信を高めるような詩劇が盛んに上演された。

以上の知見により、第一次大戦は現代演劇の重要な転回点であることが明らかとなった。またこれらの考察は、戦争プロパガンダにおける女性や子供の位置、あるいは戦争を「表象」とは何かという問題について、新たな考察を迫るものである。

研究成果の概要（英文）：

My research on the French theatre during World War I, which focused on the plays written and/or represented in wartime, revealed the following points: (1) theatre could no longer serve as an appropriate media for war propaganda; conventional theatre, in which the verbal expression played a major role, found its inability of representing the modern warfare. As a result, the post war French theatre was driven to a more avant-garde, revolutionary form, threatened by the movie that then became a powerful competitor. (2) In the war propaganda theatre, just like in the real warfare, women and children were “mobilized”; it brought in the post war theatre such motifs as strong women and predilection for childish things. (3) The peculiarity of the wartime theatre in France; as the French theatre had traditionally respected the “parole”, there appeared a particular type of verse plays in which the authors seemed to exorcise the enemy by the incantation of words, thus recovering their cultural supremacy.

The above findings indicate WW I constitutes the real turning point in the development of the modern theatre because it brought a reflection both on form and object of theatrical expression. In addition, they ask us to reconsider such problems as how women and children are represented in the modern war propaganda theatre and how the modern warfare could be represented in the theatre.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史

キーワード：表象文化論・演劇学

### 1. 研究開始当初の背景

第一次世界大戦が、西洋史のみならず世界史および文化史の研究において占める重要性についてはすでに多くの研究によって明らかにされている。しかし第一次世界大戦中の演劇、特に大戦中のフランス演劇の実態については、日本はもちろんのこと、フランスにおいてもこれまでほとんど知られることがなかった。

その理由は、一つには最近の演劇研究が同時代の上演分析を重視するあまり、歴史的研究の重要性が軽視されるという傾向があったからである。次に多くの研究者は、戦争プロパガンダ劇を研究の対象とする以前に、戦争協力の一形態として倫理的に判断しがちである。従って、そこに演劇が戦争をどのように表象できるか（さらに歴史的に演劇が戦争とどう関係してきたか）という根本的な問題が隠されていることが見逃されてきたからである。

### 2. 研究の目的

第一次世界大戦中に戦争をテーマとして書かれ、あるいは上演されたフランスの戯曲について調査することによって、演劇は戦争をどのように表象したか（あるいは表象することに失敗したか）を明らかにすること。それによって、戦争と演劇はどのように関わってきたのかという問題について、より一般的な洞察を得ると共に、フランス演劇におけるこの問題の特異性についても明らかにすること。

### 3. 研究の方法

この時代に書かれた戦争演劇（戯曲）についてフランスの国立図書館に収蔵されている資料を手がかりに網羅的に調査を行う（この時代に書かれた戯曲の大半は、上記図書館以外では閲覧できないし、ほとんど閲覧されていない）。さらに当時の劇評、新聞記事、

日記などを元に、この時代の演劇と戦争との関わりについて、その上演の実体も含めて、総合的かつ具体的な視野を得ること。

### 4. 研究成果

今回の研究は、まず研究の進行途上の成果を、大阪市立大学表現文化学会ならびに大阪市立大学人文学会において、二つの論文として発表した。それによって京都大学人文科学研究所が行っている共同研究「第一次世界大戦の総合研究に向けて」の研究グループとのつながりができ、今回の研究をより幅広い見地で行われている第一次世界大戦の研究の中に位置づけることができた。

次に、より研究が進行した段階での成果を、日本演劇学会における学会発表として結実させ、日本の演劇研究者に対して第一次大戦中のフランス演劇の実態が研究上の空白となっており、興味深い問題となっていることを示すことができた。

さらに日本フランス語文学会における学会発表は、フランス文学ならびにフランス文化史研究におけるこの問題の重要性を示し、それは同学会における研究論文として結実した。この論文はフランス語で書かれ、海外の研究者に研究成果を発信することができた。

また今回の研究成果は、平成 24 年度に大阪市立大学人文叢書として刊行予定の小田中章浩『記憶喪失とその表象』（仮題）にも反映されることになる。さらに将来的にはこの問題についてより包括的な研究書の刊行を計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1. Akihiro Odanaka, La Poésie dramatique face à la catastrophe – Etude sur le théâtre français pendant la Grande Guerre, Études de Langue et Littérature Française (フランス語フランス文学研究) No.100 –mars 2012-, Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises (日本フランス語フランス文学会), 査読有, 2012年3月14日, pp.169-185.

2. 小田中章浩「戦争とメロドラマー 第一次大戦下のフランス演劇における女性の表象」『人文研究』第62巻大阪市立大学大学院文学研究科、査読有, 2011年2月15日、25～44頁

3. 小田中章浩「戦争と演劇に関する試論: 第一次世界大戦とフランス演劇」『表現文化』第5号大阪市立大学表現文化学会, 査読無, 2010年3月25日3～21頁

[学会発表] (計 2 件)

1. 小田中章浩, La Poésie dramatique face à la catastrophe、日本フランス語フランス文学会、春季大会、2011年5月28日、一橋大学

2. 小田中章浩.戦争と異文化 - 第一次世界大戦とフランス演劇日本演劇学会 2010年度全国大会、2010年6月27日、明治大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小田中 章浩 (ODANAKA AKIHIRO)  
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 70224251

(2) 研究分担者

無

(3) 連携研究者

無